

競争力強化は何のために

ーボアオ・フォーラムで考えるー

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：中国に行かれた理由は何ですか。

A：(林明夫。以下略)4月21日から23日まで、海南島で開催されたボアオ・フォーラム(Boao Forum For Asia)の年次大会(Annual Conference)に参加するためです。使用言語は中国語と英語。私は中国語はできませんので、英語で参加しました。全体では500名位が参加。政府代表として、日本からは経済産業大臣の二階俊博氏が演説。民間からは根本二郎・日本郵船名誉会長はじめ10数名が参加しました。

Q：林さんは昨年も何回か中国での国際会議に参加しているようですが、なぜですか。

A：同盟を締結している米国同様、日本の将来にとって重要と思われる中国で、中国やアジア、世界の将来を、各国政府首脳、ビジネスマン、学者、ジャーナリストと語り合いたいと思っているからです。参加者は、自らの企業や自分の国の将来のみならず、アジアの未来、地球の未来を本気で深く考え行動している方々ばかりですから、とても触発されます。

Q：今年のボアオ・フォーラムのテーマは何でしたか。

A：「互恵・共栄のためのアジアの模索——次の段階への成長促進とは(Asia Searching for Win-Win : Driving Growth to the Next Level)」でした。

人口の25%以上の人々が1日1ドル以下の収入しか得られない「最貧国」から、1日1～2ドルの「中貧国」になりつつあるアジア。人間としての尊厳を保ち生活できるだけの年間1000ドル以上の収入を得ながら、自己実現できる仕事を一人ひとりに確保させる必要があります。そのためには生産性を向上させなければならず、ここでも、国としての競争力、企業としての競争力をどう強めるかが熱心に議論されました。

Q：競争力強化のためには、どのようにしたらよいのですか。

A：自由貿易、対内直接投資、小さな政府、規制改革、民営化、地域クラスターの促進など、日本で語られているのと全く同じ議論がなされました。

中でも、日本経団連の名誉会長も兼任なさっている根本二郎氏の「競争力に関する考察」と題す

る発言は大きな反響を呼びました。

Q：内容を紹介していただけますか。

A：はい。根本氏は、①経営のゴールデンルールとして「人間の尊重」と「長期的視野」を重視。②「競争力の源泉」は「ヒト・モノ・カネ・情報のベストミックス」。③「地域の統合」は競争力に不可欠。④「教育、教育、教育」。教育が全て。「人格形成」、「職業訓練」を徹底する「学習する企業」を目指せ。⑤「人間性疎外の克服」も大切。人間性疎外は、道徳的規律のない自由放任の市場主義（公平さや正当性を欠きルールを守らない）、IT 及び遺伝子革命を伴うバーチャルな社会の拡大、家族や地域社会の絆の弱体化などに起因。⑥「思考の上で基本に戻ろう」。⑦「明確な時代認識」、「追求すべき価値の探求」、「価値実現のための処方箋と行動計画」。⑧行動の前提となる重要な価値として「調和、仁恵、道徳的規律をもった自由の良好なバランス」。⑨「価値実現のための処方箋」として「雇用の創出、生活の質の向上（社会保障制度含む）、人間開発（教育、ライフライン、医療、環境）」。⑩揺りかごから墓場までの学習社会（総合的な教養教育）。⑪文化と教育を志向する社会、科学と技術を志向する社会。⑫ダイナミックで競争力があり、人間の顔をした徳のある社会をめざすべき。これらを英語で熱心に提唱なさいました。

Q：学習塾や予備校、私立学校を経営する読者の皆様に考えていただきたいことは何ですか。

A：競争力の源泉は、我々が担当する基礎教育であります。国際競争力をもった企業活動なしには国家としての競争力は生まれず、国家としての競争力なしには人間としての尊厳を維持できる国民生活は望めません。

だからと言って、競争力を強化するためにどのような手段を用いてもよいとは言えません。「人間の尊重」と「徳のある社会」づくりというルールを守った上での競争力強化が求められます。

皆様、どのようにお考えになりますか。

－ 2006年5月14日、宇都宮大学図書館にて記す－